

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	株式会社 ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム 松風		
所在地	北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	令和7年2月21日	評価結果市町村受理日	令和7年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0175000926-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和7年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもなっておりますが、花見や菊まつりの見学等、四季に合った外出行事や施設内においても、クリスマスや節分、その季節に合った飾り付けをし、施設内で生活していても四季を感じられるよう工夫しています。生活をする上でも、利用者様のお気持ちを最大限に配慮し寄り添う介護を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は北見市の市街地に位置し、コンビニエンスストアが近くにあり、木造造りの2階建て、2ユニットでエレベーターを設置し平成18年に開設しています。「四季のある自由な生活快適にやさしい介護おいしい食事」を理念とし隣接の高齢者住宅の管理栄養士によるバランスの取れた献立で調理され食事を提供し、利用者の状態や病状を考慮し様々な形態で調理しています。また、出前や焼き肉バイキングに出掛け楽しみとなる企画に取り組んでいます。日赤の出前講座を活用し感染予防対策などを職員が受講し認識を再確認し感染症対策の強化に努めています。看取りも可能な限り本人・家族の希望・意向に添い行い、事業所では職員研修や体制を築いています。十分対策を取りながら家族との面会も出来る限り支援し、信頼関係を築きながら連携と協力をし希望を持って安心して生活できるよう取り組んでいる事業所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナも落ち着き施設外の行事を増やしている。行事だけではなく普段の生活の場にも四季を感じられるような飾りつけをしている。入居者様に寄り添う介護を心掛け、食事は職員が手作りしている。	理念はパンフレットにも掲載され、各ユニットにも掲示し職員の振り返りを促しています。管理者は常に私生活の雑念を振り払い業務に専念することを指導しています。利用者を第一に考え本人本位になるように支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	30分程度を目処に面会を再開している。	市内学院の1年生の実習生を受け入れ、利用者とのコミュニケーションをテーマに実施しています。北見神社の立ち寄り場所で北見神社祭神輿渡御で踊り等を駐車場で見学をし地域の方と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実習生の受け入れを再開し、実習生に対し介護に対する知識等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を行い、入居者様の普段の生活の様子や行事等の実施状況を報告している。	年6回の運営推進会議は家族、市介護福祉課担当、包括センター、民生委員の参加を得て、利用者状況や事故報告等をして開催されています。	運営推進会議は多くの家族や多岐にわたる方の参加を得て意見交換を行い、積極的に参加し易い工夫の検討を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況や待機者の情報を提供している。	運営推進会議に市介護福祉課担当、地域包括支援センターからの参加がありアドバイスを頂いています。苦情対応としては市と協議して理解を得ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度施設内実習と委員会を実施し、職員の知識、意識の向上に取り組んでいる。	身体拘束防止委員会及び高齢者虐待防止委員会、研修は適切に開催しています。1年間を通して職員にスピーチロックについて資料を配布し話しをしておりその都度、指導をし改善に努めています。	委員会議事録を整備し職員への周知や理解がされているかが解るような仕組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度、身体拘束の施設内実習と一緒に虐待防止の研修、委員会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた入居者様があり、その時に得た知識や経験を他スタッフと共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や内容に変更があった時は施設長か管理者、御家族に説明をし理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族から要望や御意見があった時は施設長か管理者を中心にスタッフ間でも内容を周知し希望に沿うよう援助している。	家族の意見や要望は電話や面会時、家族支援のものと受診後などで聞いています。3ヶ月毎のお便りで利用者の様子を知らせ家族の安心に繋げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、1・2F合同会議で意見交換をしている。	2ユニット合同の職員会議を開催し、職員からの意見や提案は改善に向けた具体策を講じています。資格取得は事業所からの補助もあり職員の意欲、向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な資格の研修費用を受ける事が出来る為、資格習得の向上心を持てる職場になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は施設内での研修が増えているが、ZOOM等を使用した研修の参加を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降は電話等での交流を続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に慣れて頂くための援助を中心に、アセスメント、モニタリングを行いケアプランを作成し援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御本人、御家族と面談し要望や不安な事を伺い、何時でも気軽に連絡を取れる関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族に話を伺うとともに以前にサービスを利用した場合、その担当者にも話を聞いたり帳来類を頂くなどし当ホームでのケアマネとも内容を打ち合わせている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者を常に人生の先輩(師)と考え、傾聴を心掛け、笑顔で安心して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは御本人の体調や施設での様子を電話にてお知らせしたり、3ヶ月に1回「松風だより」を作成し送付したりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご家族、友人、知人との面会や電話にて話す機会(希望時)設けたり、又、その方々の話や懐かしい場所の会話をしている。	家族支援のお墓参りや月命日の外泊をする利用者もいます。2ヶ月に1回の訪問美容、新聞購読や伝書鳩を楽しみにしている方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やゲーム等、様子を見ながらスタッフも間に入り楽しく過ごせる工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了(退去)後は特にフォローはしていないが相談があれば対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人に話を聞き、希望時出来る事は対応している。御本人がうまく言葉に出来ない時は様子を見たり行動により対応している。	職員は、生活を通して利用者の言葉や行動等から思いや意向を察知して理解するなど注意深く観察し、利用者が安心して暮らし続けられるよう支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や環境、サービス経過と御家族や御本人、以前のケアマネ等に話を聞き情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の身体機能、心身(精神)機能を常に観察し、より良いサービスに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングしスタッフ全員で話しあい、ケアマネに報告(書類・口頭)して、より良い介護計画につなげている。	介護計画の見直しは6ヶ月毎に、モニタリングは担当職員が行いカンファレンスでは全員で協議し、現状に即した計画を作成しています。生活記録にはプランが記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日(24時間)個人の生活記録に細部にわたり行動状態の訴え時や食事生活の様子を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に御本人の状況を観察し様々な所へ連携できる体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回訪問理容に来て頂いたり、包括支援センター・介護タクシー・民生委員との連携をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は御家族対応だが、どうしても都合がつかない時はスタッフ対応している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は家族が基本行っていますが、都合がつかない場合は事業所で支援しています。月1回の往診と必要に応じて皮膚科の訪問診療を支援しています。訪問看護師は週1回で必要に応じ相談し、利用者の健康管理を行い家族の安心に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回訪問にいて頂いたり、必要時は隣接する(すこやかホーム松風)事業所のナースに来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の持ち物(車の手配)のお手伝いや病院の支援担当や病棟ナースと協力している。(普段から情報交換もしている。)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の方と話し合い、御本人様と御家族の方が安心できるようなケアプランの作成をしている。	重度化指針、看取りに関する指針をもとに契約時に理解をして頂き時期が来た時に再度、利用者と家族に意向や思いを確認し事業所、協力医療機関等の支援体制を整え支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の訓練は行っていない。年に2回消防訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業継続計画を作成し、災害時でも運営できるよう努めている。	年2回の火災避難訓練は消防立会いのもと夜間想定で実施されています。また、その他の災害想定を職員が様々な場面で行動できるようにシミュレーションを行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を傷付ける事の内容に接し方について研修を行っている。	職員は個人情報保護・プライバシー保護研修・倫理及び法令遵守研修を行っています。基本マナーやトイレへの誘い方、言葉使いなどに気を付け支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様が希望に添えるようスタッフ間で相談、御家族様とも相談をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを尊重し、出来る限り希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様より服装や髪形の希望がある際には希望に添えるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺い、希望に沿って提供している。食事の準備や片付けは希望される時にお願いしている。	献立は併設の高齢者住宅の管理栄養士が作成し、利用者の状態に合わせた形態で提供しています。イベントにはお寿司の出前や誕生会はお赤飯とケーキなどでお祝いをしたり、焼き肉バイキングに出掛け好きなものを食べています。茶碗拭き、下ごしらえ等のお手伝いをお願いしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせて米飯等の量や水分量を調整している。苦手なものがあつた際は代替りのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人一人の状態に応じて介助や声掛けを行い、口腔洗浄ができるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパット等を使用し、出来る限りトイレにて排泄をしている。必要に応じてパット等の交換や清拭を行っている。	利用者の排泄状況を職員間で共有し、自立排泄へのも守り、羞恥心に配慮した声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉牛乳を飲んで頂いたり、水分を摂取して頂けるよう声掛けをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	週に2回、決まった曜日に入浴して頂いている。体調が悪い時や入浴に拒否がある場合は変更している。	週2回を目安に入浴支援を行っています。気が進まない時は、声掛けの工夫やタイミングを見計らいながら無理強ひせず入浴に支援しています。体調や状態によってはシャワー浴を行い会話をしながらバスタイムを楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の体調や希望に沿って休んで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の内容をスタッフ全員が理解し、誤薬の無いよう確認している。変更があった際には直ぐに回覧し周知できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が希望された際、茶わん洗いや食事の準備をお願いしている。又、体調の良い時は体操や折り紙などのレクリエーションにも参加して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降は行事や受診以外は外出は控えています。	天気の良い日は、駐車場に出て日光浴を楽しんだり、花見ドライブでフラワーパラダイスやみどりのセンターへ出かけたり、外食にも出掛けしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルがある為、御家族が金銭管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族が施設に来て話をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベント（行事）にあった飾り付けをしています。	心地良い共用空間になるよう換気・温湿度などに配慮しています。壁には職員の手作りの季節の飾りつけやイベントの写真が貼ってあり利用者を楽しませています。日常的に体操をしたり、個々で楽しみ好きなことをして過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間で過ごされたり居室で過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が暮らしやすく、安心した生活ができるよう、御家族と話をして良い暮らしができるように工夫しています。	居室には利用者が馴染みのある家具や位牌や家族写真を飾り、部屋の掃除をしたり趣味の読書や編み物などをしてその人らしい生活が送れるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人が安全に自立した暮らしが送れるように随時声掛け見守りしています。		